

平成 20 年 1 月 10 日

上海産業情報センター

駐在員 吉田真樹

中国へ愛知の環境技術を発信！ ～ 中国国際工業博覧会に愛知ブースを出展～

中国国家規模となる第 9 回中国国際工業博覧会が、上海市にある上海新博覧中心において開催された。工業技術・製造品の展示会としては中国最大の規模を誇る博覧会である。

愛知県は、昨年に引き続き、環境技術を中心にした愛知県内の 17 社とともに出展した。

今年で第 9 回を数える中国国際工業博覧会は、平成 19 年 11 月 6 日～10 日までの 5 日間を開催期間として、11 万平米を有する会場に、1775 社（4522 ブース）の出展と、期間中、専門業者（一般の参加者を除く）約 9 万人に上る来場者を記録した。また主催者の発表によると、期間中の成約総額は約 48 億元（約 800 億円）に達した。

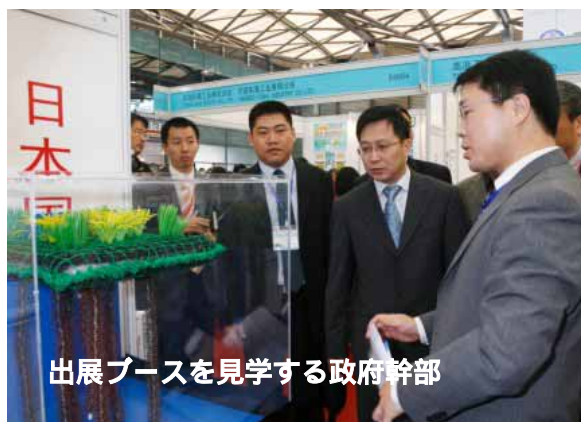
国際都市上海を象徴して出展企業の約 3 割（326 社）は、日本、アメリカ、ドイツなど 20 カ国からの外国企業参加と、海外からの出展が多いのも特徴である。展示は、昨年と同じく、7 つの専門分野（工作機械、工業自動化、エネルギー、IT と IT 設備、環境保護技術、重工設備、革新的科学技術）ごとのパビリオンにわかれ、その中で愛知県は、県内企業 17 社とともに、中国において近年、最も注目が集まっている環境保護技術パビリオンへの出展参加をした。



1、愛知県ブースの出展

今年も愛知ブースは環境がテーマである。やはり同様に、環境が大きなテーマであった愛知万博の開催以後、愛知県内でも環境技術に関心を寄せる企業は多い。また自動車産業などを中心とするものづくり県である愛知では、優れた技術を有する製造業企業も集積している。こうした企業に対して、愛知県では 2003 年度から「愛知ブランド」として、その優れた技術力の高さに認証を与えている。今回の愛知ブースの出展では環境技術に合わせ

て、こうした愛知ブランド企業の技術や製品を海外にひろくアピールすることがもうひとつのねらいでもある。



出展ブースを見学する政府幹部

近年、著しい成長が続く反面で環境に対する課題の大きさが深刻化してきている中国に対しては、海外からよせられる関心も高く、日本勢でも愛知県以外から、大阪府、宮城県、兵庫県、神戸市、横浜市、川崎市、等の自治体や団体が出展した。ことに愛知県ブースに対しては、中国においても官、民ともに関心が高く、一般のバイヤーに加えて上海市前副市长や上海市城市建设投資開発総公司総経

理、上海世博集团有限公司董事長などの政府機関幹部が多くブースを訪れた。また今回の愛知県および愛知県企業の環境パビリオンへの出展に対して、「中国の将来に多大な効果をもたらした」という理由で、主催者から「優秀組織賞」が贈られた。

愛知ブースに出展した企業の一部を紹介する。

ティビーアール ▶ バイオコード

バイオコードとは、ティビーアールが得意とする魚網や、組紐の技術で開発した、微生物を大量に保持することができる固定床に利用する浄化装置。

バイオコードに定着した微生物の力で水や空気をきれいにするすることができる製品。嫌気と好気が同居できるため、1つの槽で2つの効果がある。目詰まりしない構造であり、維持管理が簡単なことが特徴。



東朋テクノロジー ▶ スパコンR

室外空調機に取り付けることで 30%の省エネを実現する装置。スパコンRという凝縮器を追設することにより、室外機の冷媒冷却能力を増大させ、本体で液化できなかった冷媒を特殊な構造を持ったスパコンRを通過させることにより、完全に液化する役割を果たす。また冷媒についても圧力が 25%低い特殊な冷媒に入れ換えることにより、電流値も下げることができる。圧力を低下させることにより圧縮機の負担も軽減される効果があり、圧縮機の寿命を



延命できる。スパコン R と低圧冷媒を組み合わせたハイブリッドシステムは、大幅な省エネ、省電力を実現し、地球温暖化抑制に貢献するシステム。

2. 日中環境保護・省エネフォーラム ～日本愛知の環境保護と省エネ技術・製品～

出展に合わせて会場内のセミナールームでは、11月7日午後、出展した愛知県企業の代表3社と愛知県による環境テーマイベント「日中環境保護・省エネフォーラム ～日本愛知の環境保護と省エネ技術・製品～」(以下、環境フォーラム)が開催された。この環境フォーラムは、愛知県のほかに、上海市城市建設投資開発総公司、上海世博集団との共催で開催され、日中双方から環境改善の必要性や改善努力に対する提案や、意見交換がなされた。上海市側からは、目下、上海市は第3回環境保護活動計画を実施しており、その環境関連投資は約40億元(約600億円)に上り、水質汚染や大気汚染の浄化、固体廃棄物のリサイクルなどに対する強いニーズがあることと、愛知県の環境技術に対する期待が述べられた。

愛知県側からは、稲垣副知事によるスピーチにおいて、以前、大気汚染や水質汚染により環境被害が深刻であった時代を乗り越え、産業発展とともに環境改善に取り組んだ歴史と、愛知万博以後も続けられている最新の環境への取組状況について説明がなされた。参加者はみな一様に熱心な聴講ぶりで出席者は約120名に上った。



環境フォーラムの様子

今回の5日間の期間中で愛知ブースを訪れた来場者数は約6400人、商談件数は878件に上った。12月末時点ですでに5件の契約が成立しており、出展者の間からは「出展してよかった」、「想像以上に反響が高かった」などの声も聞かれ、中国における環境に対する関心とニーズの高さと、愛知の技術に対する期待の大きさを印象付ける出展となった。